



再度の旅

新宿駅から信越線あずさ2号で松本駅へ向かう。



竣工当時の遠景 背景には北アルプスの山峰
(撮影 加藤嘉六)

車窓からの街並みや景色の様変わりを目立つ都心を通過するころ、郊外の田園風景に気分もほっとする。沿線をしばらくゆくと山梨の甲府駅附近に山梨文化会館があり、諏訪湖畔に沿って建つ諏訪湖博物館と脳裏に焼き付いている建物が眼に入ってくる。さらに、松本駅から大糸線に乗り換え、穂高駅に下車すると一面の風景や透明な空気が体をよぎった。

駅周辺には小規模な町の資料館、お土産品店、飲食店が軒をそろえ、アットホームな雰囲気のお店が点在する。ヒューマンスケールの閑静な駅前広場では、所在のない観光客がちらほら溜まっている。この地には、以前設計した滞在型リゾートハウスの施設があり、久々に訪ねることとなった。施設は駅の近郊に位置し

時を経て建物に風情



(上)正面南側の幹線道路より見る竣工当時の建物(撮影 加藤嘉六)
(下)現在の様子

(筆者撮影)



ており、背景には北アルプスの山峰が連なり、隣にはあずみの、穂高カントリークラブの森という絶好のロケーションと安曇野の街を一望できる高台に建っている。

構成としては52名収容の宿泊施設と、ナイター設備のある全天候型テニスコート2面、集成材のフレームの屋根付コート1面、ミニゴルフ場の施設。休日を通したい大人の附属設備、家族づれのための芝生の中の遊び場、遊具等が完備している。

屋根の形状としては、北アルプス山峰の山並みの重なり合う美しい表情をデザインモチーフとし、切妻、片流れの連続形をとり入れ、場所の持っている力を回復したい想いがあった。

穂高町周辺は寒冷地となっており、屋根の積雪をできるだけ少なくすることが考えられた。また、凍結深度が80センチと深く、建物の足元廻りの縁石、雨樋、軒先、谷のある屋根等の形状には技術的な裏付けが重要であったし、現在、建物の外観や細部に影響しておらず安堵している。

時間が経過し、敷地には芝生、モミジ、白樺、ケヤキが繁茂し、建物の外壁や塀にもツタや低木が覆って、周辺との調和が風情のある佇まいとなっており、再度訪れるリピーターも多い。